

サザエ稚貝資源の保全に関する研究

(予算区分 県単 研究期間 平成20～22年度)

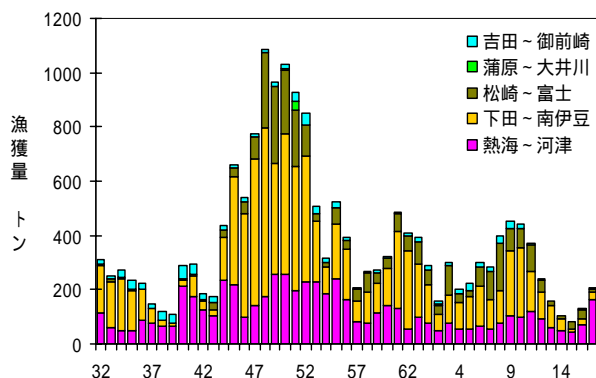
担当：伊豆分場

【研究の背景とねらい】

サザエは磯根漁業の重要種であり、民宿等で地元のサザエが必要とされています。漁獲量には周期的な変動があり、地域による違いも見られますが、近年は変動が小さくなり漁獲量が低迷しています。

アワビに比べて単価が安いいため、放流事業には不適とされており、資源の維持・増大のためには漁場と資源の管理が必要です。一般に稚貝期の生残は生息環境に影響されることが知られていますが、これまでに、サザエの漁獲加入前の稚貝の減耗要因について明らかにした事例はありません。

そこで本研究では、サザエ稚貝の生残に対する植生、餌料、地形等の影響を評価し、稚貝から漁獲加入までの減耗要因を明らかにするとともに、地域の操業実態とあわせ、地域ごとのサザエ稚貝の保全に役立てます。



静岡県のサザエ漁獲量の推移



潜水による採貝

【期待される効果】

- ・ サザエ稚貝にとっての好適な生息環境条件を明らかにするとともに、稚貝から漁獲加入までの減耗要因を明らかにします。
- ・ サザエ資源増殖のための基礎的知見が得られ、地域の操業実態とあわせ、地域ごとのサザエ資源の安定に役立ちます。

【年次計画】

課題	研究期間	研究内容
稚貝の生息環境研究	H20	稚貝から漁獲加入までのサザエの生息環境（水深、植生、地形、外敵等）を把握する。
稚貝の減耗要因研究	H20 ～22	環境条件別のサザエ稚貝の食性、密度、成長、移動等を把握し、減耗要因を明らかにする。
操業実態調査	H20 ～22	地区別の漁獲量、操業日数、操業隻数から操業実態を明らかにし、稚貝の保全に役立てる。

(作成 平成20年4月)